

# ビラ ー ン 通 信

No. 1 1

1998.4.15

∞ サムラング短信 ∞



CMB・プロジェクト・ディレクター (Fr. ノノイ) 識字教室

- \* 去る3月20日、1、2年生だけのサムラング初の終了式が行われました。奈美さんも参加してくれて大変楽しい式典になったようです。私は残念ながら所用でいけませんでした。ポール神父やスタッフが彼女とともに参加しました。その祝い事が終わったすぐあとの夜中、サムラング・プロジェクト責任者、ラウロのところにMILF (モロイスラム解放戦線) のメンバー数人がやってきて食糧を所望しました。すぐ立ち去りましたが住民たちはしばらく不安な夜をすごしたようです。そのほかにも、2月にはサムラングから4 kmほど離れたところで軍によるゲリラへの攻撃があったと聞いてその時もサムラングに駆けつけました。しかし、もう大丈夫です。住民も平静を取り戻しました。(3/23)
- \* 2月20日には、サムラングとアトゥモロックの識字教室 (大人対象の読み、書き、算数教室。登録生徒数は両コミュニティで87名) の生徒達が社会見学でジェネラルサントスにいきました。中には初めて町を見た住民もいて大喜びでした。海で泳ぐのももちろん大部分が初めて。ジェネラルサントスは今後サムラングやアトゥモロックにおけるペパー、オニオンなどの換金用野菜の市場として期待される町です。(2/23)
- \* コミュニティーの養殖場でティラピア (白身の淡水魚) の出荷が始まりました。4月のHANDS メンバー来訪時、そのティラピアでもてなしたいと住民は張り切っています。今3,000匹育てています。ラウロの話ではもっと池を増やす予定とか。サムラングは川に沿って水を引きやすく養殖に適しています。(3/8)
- \* サムラングで多目的互助組合が活動を始めました。3月28-29日には約30名がKlawil Gutnga (クリニック) に集まり、ラウロと分校教師エルナの指導でセミナーが開かれる予定です。(3/23)

## サムラング多目的互助組合 Klawil Gutnga Multi-Purpose Cooperative:

「ビラ ー ン 通 信」10号の冒頭で紹介したラウロの記事に関連して、サムラングの問題とその解決法についてCMBと話し合ったところ、小さな互助組合を作るのがベストということになりました。2月末に送付されてきた計画を検討した結果、試みる価値があると考えて、経費の一部支援を決めました。(会員の皆様すべてにお知らせする機会がなかったので、一部賛同者の寄付1,000ドルを当てさせていただきました。) 一步一步ゆっくり、を大切にしたいので、まずは一部支援で様子を見ることにし、CMBもこの方針に同意しました。事業の概要は;

対象・・・当初30家族。各100ペソの出資金を出す。(合計約1万2,000円)

支援要請額 3,500ドルを加えて、30家族の始業資金とし、種苗、肥料を共同購入する。

4ヶ月ごとの収穫時に10%の利子で返済する。返済できなかったものは次回の始業資金の借入が出来ない。住民は同時に、識字教室を通じて、農業技術、組合運営の仕方なども学ぶ。高利貸への依存を断ち切る試みです。返済が順調にいけば受益者が増えるしくみです。

(山崎)